

読売新聞朝刊 2011年8月10日(水)

遺伝子実験に
高校生が挑戦
岐阜でサイエンス講座



実験に取り組み高校生

岐阜薬科大学と日本学術振興会が高校生を対象に企画したサイエンス講座「ノーベル賞の発明を利用して実験してみよう～遺伝子解析の体験」が9日、岐阜市大学西の同大本部学舎で開かれた。

岐阜、愛知、兵庫県など県内外の高校生35人が参加し、ノーベル化学賞を受賞したアメリカの生化学者キャリー・マリス博士が開発した遺伝子の増幅方法（PCR法）を使ってマウスの遺伝子型を判定する実験などに挑戦した。

遺伝子から生物の構造や病気の仕組みがわかるが、生体から

採取できるDNAの分量は限られていた。しかし、PCR法を使うと、特定のDNAだけを2時間程度で何百万倍にも増やすことができ、病原菌の検査や医薬品の開発、犯罪捜査などに利用できる。

高校生たちは同大の大学院生らの指導を受けながら、微量のマウス遺伝子を特殊な器具で採取。反応液に混ぜて増幅装置にかけて遺伝子型を分析した。

愛知県津島市の高校3年の男子学生(17)は「難しく理解できない点が多かったが、実験はとても面白く、薬学を勉強してみたいと思った」と話していた。